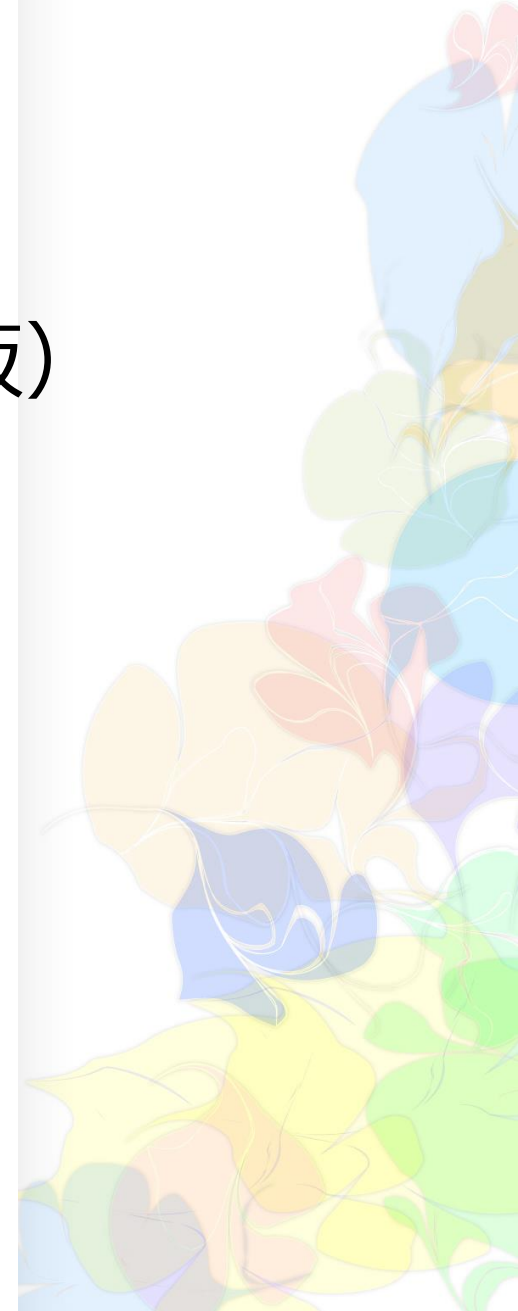


平野区将来ビジョンの振り返りと 新たなビジョン策定に向けて（骨子素案）

令和7年5月

項目

- 将来ビジョン策定の目的
- 将来ビジョンの振り返りについて
- 新たな将来ビジョンのめざす将来像（仮）
- 策定に向けた方向性（3つの柱）
- 具体的な取組項目

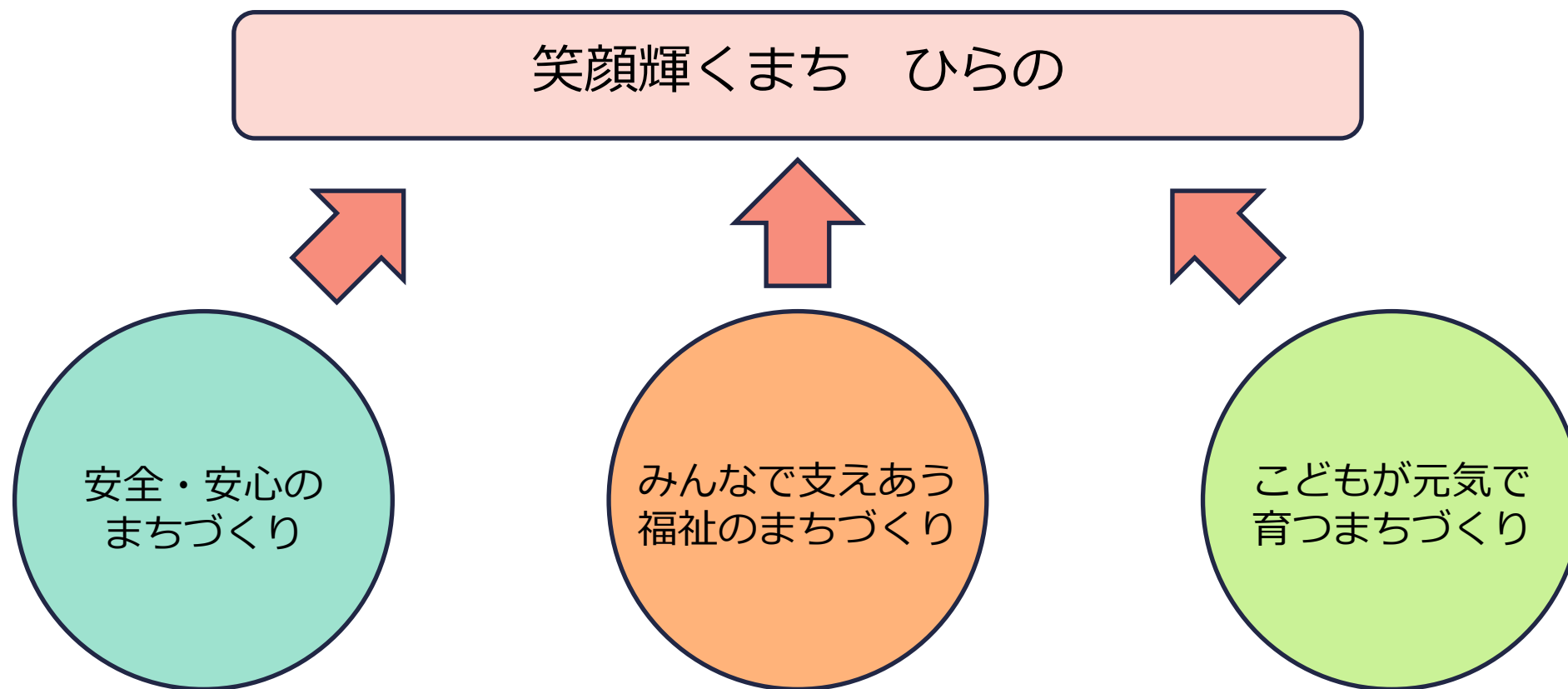


将来ビジョン策定の目的

- 将来ビジョンは、区政の運営において区のめざす将来像を示し、その実現に向けた施策（まちづくり）の方向性を区民の皆さんに明らかにするものです。
- 現行の将来ビジョンは令和7年度までの計画期間となっています。そのため、これからの4年間（令和8～11年度）を見据えた中長期のビジョンを新たに策定します。

将来ビジョンの振り返りについて

現行の将来ビジョンは、平野区の課題を解決し、めざす将来像である『笑顔輝くまち ひらの』を実現するために、主に以下の3つの方向性（柱）に基づいて施策（まちづくり）を推進しています。



将来ビジョンの振り返りについて

安全・安心のまちづくり

めざすまちの姿

誰もが愛着を持ち、安心して住み続けることができるまち

課題と求められる対応策

- ◆ 近年、多発する自然災害により甚大な被害が発生し、高齢者や障がいのある人など、自力避難が難しい要支援者のための個別避難計画の策定が求められています。
- ◆ 街頭犯罪発生件数は減少傾向にあるものの、特殊詐欺やこどもを狙った犯罪が多様化しています。
- ◆ 町会・自治会の加入率低下や高齢化、若い世代の活動参加の希薄化により、地域コミュニティ基盤が弱体化しています。
- ◆ まちの魅力を高めることは、平野区に愛着を持つ動機づけになるため、各地域の特色を広めて次世代に継承し、区民のニーズに合ったまちづくりを推進する必要があります。

具体的には・・・

- 地域住民が防災に高い関心を持てるよう、防災リーダーが中心となり、消防とも協力しながら地域における自主防災組織による主体的な取組を支援することで、**防災意識の普及啓発**に努めます。
- **地域住民との協働や警察との連携**によって、より安全で安心なまちづくりを推進します。
- さまざまな人が**地域活動に参加**し、地域団体間での連携・協働が行われ、地域と行政が協働しながら地域課題の解決に取り組みます。
- 区民ニーズ等を踏まえた**未利用地の有効活用**の方向性に基づき、まちの魅力の向上に取り組みます。

将来ビジョンの振り返りについて

安全・安心のまちづくり

将来ビジョン計画期間を通しての自己評価

《地域防災力の向上》

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、防災に関する地域活動を制限していた地域が多かったが、令和5年度以降は、地域での防災訓練をはじめ、学校での防災授業を幅広く展開し、消防署と連携した実施支援を行うことができ、今後も取り組んでいきたい。

《地域防犯力の向上》

街頭において行われる犯罪等の発生状況は、この数年で地域と警察との協働啓発活動により減少傾向にある。特殊詐欺被害については、特殊詐欺被害防止の啓発活動の実施回数は目標値より上回る実績となっているが、特殊詐欺被害の被害金額は増加している状況である。

被害者となりやすい高齢者等だけにとどまらず、SNS等により被害がある若年層にまで幅広く啓発することができるよう引き続き取り組んでいく。

将来ビジョンの振り返りについて 安全・安心のまちづくり

将来ビジョン計画期間を通しての自己評価

《地域活動力の向上》

まちづくりセンターを活用しながら広報活動に力を入れてきた。

コロナにより縮小・中止されてきた地域活動も再開されているが、コロナ禍前の担い手が戻ってこない地域もあり、今後も各種活動に対し支援を行っていく必要がある。

また、当区では会計支援としてまちづくりセンター独自のシステムをすでに構築済みのため、大阪市のシステムへの移行については、今後段階的に行っていく必要があると考える。

《地域魅力の向上》

長吉ウェルカムタウン計画の振り返りにより、今後の方向性を示し、まちの魅力の向上に向けた未利用地の有効活用に努めた。今後も未利用地の有効活用の方方向性に基づき、まちの魅力の向上を図っていく。

将来ビジョンの振り返りについて

みんなで支えあう福祉のまちづくり

めざすまちの姿

すべての人がお互いを尊重しつつ、つながり、支えあえるまち

課題と求められる対応策

- ◆ 平野区では、4人に1人が65歳以上の高齢者と高齢化が進み、また、要介護(要支援)認定者数・障がい者手帳所持者数はともに15,000人以上となっています。このようなこともひとつの要因となり、当区では特に高齢者や支援を要する区民が多く、今後も増加が見込まれます。
- ◆ 増加していく高齢者には必要とする支援や健康増進、いきがいづくりなどが課題で、地域コミュニティの維持には、高齢者が地域活動に参画できる環境づくりを進めて、高齢単身者などの孤立化を防ぐことも重要な課題としてあげられます。
- ◆ 認知症や障がいなどがあり、支援を必要としている方の早期発見や早期支援に努めるとともに、認知症や障がいのある人などへの正しい理解を促進する必要があります。

具体的には・・・

- 区民がつながり支えあい、住んでいる地域で健やかでいきいきと暮らせるよう、地域の実情に応じた**地域支援体制**が有効に機能し、認知症や障がいがある人などのさまざまな状況に対する理解を深めることができるよう努めます。

将来ビジョンの振り返りについて

みんなで支えあう福祉のまちづくり

将来ビジョン計画期間を通しての自己評価

《地域福祉力の向上》

地域での福祉活動を中心的に担うため、広報紙等を活用し、地域福祉活動コーディネーターや事業内容について広く周知を行った。

高齢者が地域でいきがいをもって過ごせるよう、また認知症の予防、認知症になっても住み慣れた地域の活動に参加できる環境づくりのため、いきいき百歳体操の支援を実施した。さらに広めていくために、引き続き、周知・支援を行っていききたい。

将来ビジョンの振り返りについて こどもが元気で育つまちづくり

めざすまちの姿

こどもたちが家庭・学校・地域で育まれ健やかに成長し、次の世代を担っていくことができるまち

課題と求められる対応策

- ◆ こどもの学力・体力の低下や不登校、SNSを使った新たないじめ、事件等が増えています。
- ◆ 教育力の低下や子育てに不安や悩みを持つ保護者が増加しています。また、こどもの放置(ネグレクト)や虐待、さらにはヤングケアラー等の問題を抱える要支援家庭も増加しています。
- ◆ 若い世代が安心してこどもを産み育てることができる環境づくりや、こどもが家庭や学校をはじめ広く地域の人々とふれあい、様々な体験を通して健やかに成長し、社会・地域に貢献する次世代へつなぐ人材を育成する必要があります。

具体的には・・・

- こどもたちの健やかな育みを支えるため、**妊娠期から子育て期、こどもの社会的自立までの切れ目ない支援**を進めます。
- 子育ての不安や悩みのある方が相談しやすいよう取り組むとともに、児童虐待を未然に防ぎ、深刻化させないための対策をより一層強化します。
- 基礎学力の向上、読書習慣及び家庭学習・生活習慣の定着に向け、総合的なこどもたちの学びの支援に取り組みます。

将来ビジョンの振り返りについて

こどもが元気で育つまちづくり

将来ビジョン計画期間を通しての自己評価

《子育て支援の充実》

子育て支援室に専門職を複数名配置し適切な支援を行うとともに、子育て世代への情報発信やつながりを深める場づくりに取り組むことで、児童虐待の未然防止等に取り組むことができた。さらには令和6年4月からは「こども家庭センター」の運営を開始し、母子保健・児童福祉の両機能をこれまで以上に連携・協働することで、全ての妊産婦、子育て世帯、こどもの様々なニーズに応じた切れ目のない一体的な相談体制を構築することができた。

一方で、依然として支援の必要な家庭が多くあり、その中でも支援につながらずに子育て環境が改善できないケースは、より専門的な個別支援が必要となっている。

また、高校卒業後も支援を必要としているケースに対しては、卒業によって支援が途切れることのないよう、関係機関につなぐことで継続した支援体制を構築している。

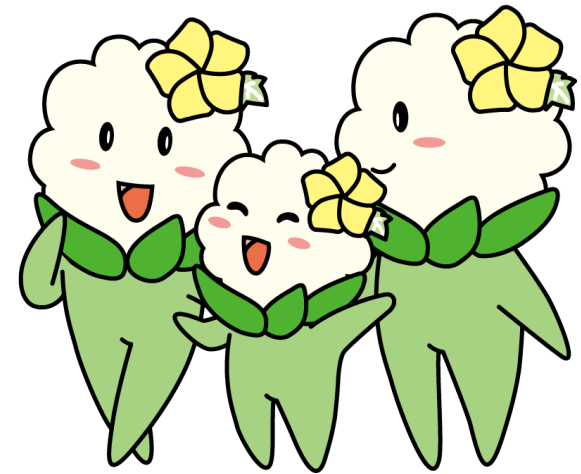
《こどもの学習意欲の向上》

「学校に行くのは楽しい」と感じる生徒の割合は、76.9%と昨年度よりもやや向上しており、3年連続して目標を達成できている。

読書ノートは、小学校は4人に一人が目標に到達、課題だった中学生も少しだが向上した。がんばる小・中学生も毎年受賞者があり、児童・生徒の励みになっていると学校からも評価されているため、引き続き取組みを進めたい。

新たな将来ビジョンのめざす将来像（仮）

笑顔あふれる、つながりと活気のまち



策定に向けた施策の方向性（3つの柱）

1. 安全安心のまちづくり

2. みんなで支えあう福祉と健康のまちづくり

3. こどもが元気で育つまちづくり

具体的な取組項目



安全安心のまちづくり

- ・防災力の強化
- ・地域コミュニティの活性化
- ・防犯対策の強化
- ・魅力あるまちづくりの推進



みんなで支えあう福祉と健康のまちづくり

- ・地域福祉の推進
- ・健康づくりの推進



こどもが元気で育つまちづくり

- ・子育て支援の充実
- ・教育支援の充実